

令和6年度敦賀市中池見湿地保全活用協議会 第1回会議（要旨）

日 時：令和6年4月15日（月）10：00～12：00

場 所：敦賀市役所2階 消防講堂

出席者：会員10名、顧問1名

リモート：顧問2名

【開会】

○令和6年度敦賀市中池見湿地保全活用協議会第1回会議の開催にあたり、会長より挨拶をいただいた。

（会長）

・北陸新幹線が開業されて、本当に景色が大きく変わった。中池見湿地も多くの方が訪れていただけるのではないかと、敦賀の貴重な財産だと思っているので、保全活用の在り方を考えていくきっかけになればいい。

【議事1】中池見湿地に係る令和6年度事業予定等

○資料1に基づき説明（事務局）

○質疑応答まとめ

（会員）

・原点に戻るようには考えないといけない時期かと思う。中池見湿地の保全活用計画策定からずいぶん経つが、当初の思いからどこまで来ているのか。今年度どういう思いで計画を立てていて、結果どういう状況になった。それを踏まえてどうしようかと、次のステップに行けると思うので、補足をしていただくとより理解が深まる。

（事務局）

・令和5年度、前年度の維持管理の状況だが、基本的にこの計画を策定してから、湿地の保全活用で、特段大きな計画変更はない。それぞれの立場で湿地の保全について専門的な知識のある方でいろいろしていただく。行政としては、施設の維持管理をしていく。湿地の保全を維持管理して環境に大きな影響があったところは今のところないので、スタンスとしては引き続き、きちんと保全管理を皆さんそれぞれの立場でやっていただく。

・コロナ禍という影響も消えており、新幹線開業ということも迎えた。特に令和6年度については、市外からの観光客を集めるようなPR等はこれまで以上に引き続き行っていきたい。また個別の計画については紹介した業務管理委託、また中池見ねっさんのお知恵をいただきながら、皆さんに知っていただく魅力ある湿地づくりを実施していきたい。

(会員)

・組織名も環境政策課という形はとてもいいこと。今までは現状をいかに分析し対策するかというところが、少し先を見て計画的に取り組んでいこうという思いが、課の名前から感じられた。どういう思いで組織名称が変わり、どういう思いで取り組んでいくか一言いただければ。

(事務局)

・課の名称については、環境部署として、中池見湿地のほかにも公害対策や、樫曲の民間最終処分場の問題とか、様々な環境分野の課題を進めてきた。これまで環境廃棄物対策課という名前だったが、1番大きな理由として、環境分野で取り扱う狂犬病予防接種や野良猫の不妊治療、墓の改葬の手続も当課でしていた。市民からの声で、廃棄物という言葉はそぐわないという意見があったので、環境政策を新しい市長のもとで進めていくということで、課の名称が変わった。

(会員)

・既存木道の改修に向けた調査設計業務を行うということで、老朽化も深刻になってきてありがたい。木道の中には解説の看板も設置されており、内容がかなり古くなってきているものや、パネル自体かなり崩壊が進んでいるものもあり、同じように改修を行っていただけるとありがたい。加えて木道、どうするともっと保全や活用に向けて生かすことができるかを私たちの中でも話し合うことができると思うので、度々提案とか状況の報告をいただけると。

(顧問)

・来る人の推移についてお聞きしたい。グラフを見ると、令和2年にピークになっているが、令和5年で大体2万7000、2万8000で、大体落ちついている。時期早尚だが北陸新幹線が敦賀まで延伸して、これからシミュレーションしていかないといけない。コロナの影響があったにもかかわらずそれほど減ってはいないが、近郊から来るのと、遠方からわざわざ湿地を見に来る方、コロナの影響の出方が違うだろうから、具体的にどこからどういう質の方々 came か。

・2点目は、基金残高が非常に気になる。平成17年と比べると約6分の1まで減っている。今後どういう見通しが敦賀市としてあるのか。

(事務局)

・来館者数の推移を把握している手段が、人感センサーを設置している。入場券を発行するか、入場料を取っている施設ではなく、人感センサーの数だけを押さえている。現状としてこの2万以上の方たちの内訳までは把握出来ていない。

・2点目の基金は、通常の維持管理経費分が減っていくような状況にこれからなっていく。基金、ふるさと納税で中池見の保全をこれまで行ってきたが、今後は市の一般財源を持ち出す議論になってくる可能性はある。

(会長)

・ふるさと納税は一つの有力な財源だと思うが、基金の残高が減っていることに対してそれをどのように持続させていくかは、ふるさと納税だけでなく、いろんな財源を含めて、検討していかなければいけない課題。このままなくなっていくと数年で枯渇する計算になるので、明確な方針のもと対策をお示しする必要があると思っている。皆さんからの意見をいただける場があるとよい。

(会員)

・敦賀市職員向けアンケートについて、過去にこういう職員のアンケートを協議会に出したことがないはず。

(事務局)

・今回資料に載せたのは、前回古民家の扱いは、中池見に行ったことがある人に聞かないと意味がないと意見があり結果をお示し出来てなかったため。

・アンケートを取った目的としては、職員だが市民でもあり、ざっくりと中池見に対して、職員がどういった感じ方をしているかただ聞き取っただけ。何か施策に直接反映することはない。ただ、いろいろ決定していく材料の一つとして参考になるとは思っている。

(会長)

・市民と言ったがやはり職員。市民の意見は市民の意見として、これから市民にアンケートをかけるときの参考であればまだいいのかもしれないが、これで何か話を進めるような印象になってしまっている。今回はあくまで前回の追加資料の説明ということなので、これで打ち切りにした方がいい。

(事務局)

・会員の皆様でこういったアンケートをとったほうがいいということであれば、今後いろんな機会にアンケートをやっていきたい。皆様からいろんな意見を頂戴しながら進めていきたい。

(会員)

・今まで市はアンケートをもとに行政を運営したことがなく、議会にも区長会にも諮らなければならぬしなかなか難しい。敦賀市にアンケートをとるという条例がない。

(会長)

・総合計画をつくるときは、市民アンケートはとっている。いろんな計画をつくるときのアンケートはどの部署でもやっている。職員だけのアンケートが政策決定の材料になるっていうのはさすがに飛躍し過ぎだと思う。それはこれで止めたほうがいい。今回のアンケート結果の伝えたいことが市と我々のほうで少し食い違いがあったと思う。

(会員)

・来訪者の推移について、県外の方か市内在住の方か、敦賀市のほうで把握出来ないとあったが団体来訪は申込みいただいております、また館内に芳名帳を置いているので、活用するとより把握できると思う。ビジターセンターのスタッフとしても芳名帳に記入を声かけするなどし、県内県外の方の利用を把握してもらえると今後の新幹線の利用者の増加も捉えられると思う。

【議事2】自然復元措置の取組

○資料2に基づき説明（鉄道・運輸機構）

○質疑応答まとめ

（会員）

・資料の一番の判断は、植物を植栽するかどうかということ。中池見に本来ない植物が生えてしまうとNGなので確認が問題。アンカー杭が金属材質なのか分からないが、今後の自然に何か影響があれば専門的な話をいただきたい。

（鉄道・運輸機構）

・まだ設計が完了しておらず、アンカーピンの材質等もこれから詳細を確認する段階である。種子の話もあったが、今回は大きな方針を伺えればという主旨であったため詳細なものが無い段階の相談となり申し訳なかった。意見があれば今後の設計に反映していきたい。

（会員）

・我々も湿原を復元する回復するというイメージは湧きにくいですが、漠然として元の環境に戻したいぐらいしかない。ラムサール登録地のように、現状を維持していこうというところはほかにもあると思うが、原状回復の知見はあるのか。もう少し具体的な選択肢があると、検討するときにとっても役立つと思う。

（鉄道・運輸機構）

・他事例をお示しできれば、今日の議論も深まったと思うので今回の反省点である。他事例が無いか確認し、分科会の場も活用しながら改めて具体的な提案をしたい。

（顧問）

・機構さんが中池見湿地の後谷まで配慮していただいたこと、ミディゲーション5原則に基づいてサービスしていただいたことに感謝申し上げます。サービスついででずっと協議会に関わっていただきたい。中池見湿地にどうこれからビジターを呼び込むかという現実的な問題があるかと思う。ラムサール登録湿地の魅力を考えたときに、中池見湿地一つという考え方からビジター向けに質を変えて提案したほうがいい。

・メインの第1のホットスポットは湿地そのもの。第2のホットスポットとして後谷もあってもいいのではないかと。エコツアーのリードの仕方で、中池見湿地だけでなく樫曲の駐車場周辺とのつながりの中で、後谷も一つの見せ場のような形にすれば、ビジターをもう少し幅広に引き込めるのではないかと。協議会にとどまっていたら、中池見湿地全体を見ていったほうが、ビジターをどう呼び込むか、北陸新幹線とのつながりが外部から呼び込むという点では、今までの考え方を一歩進める必要があるかと思う。そういう意味では協議会に、機構さんに引き続きコミットしていただきたい。

(鉄道・運輸機構)

・後谷の復元はしっかり対応していきたいが、我々組織の形態上、未来永劫関わるといのがなかなか難しいところはある。工事をやってきた責任もあり、できる限りのことは市と協力しながら今後も進めていきたい。

(会員)

・法面補強について、表土利用工と自然侵入促進工は外から種子を持ち込んだりしないために提案いただいているかと思うが、それぞれの方法で具体的にどういう植物が侵入しやすいか発生しやすいか、説明いただけると話しやすくなると思う。分科会では植物の専門家の方とか、新幹線フォローアップ委員会の先生方に参加いただくことも考えているので、詳しく検討していただければと思う。

(会員)

・金網は下線を引いてあるように、メッキしている亜鉛メッキの網なのか、純粋な鉄だけの網なのか。もう一つは、アンカーピンが鉄なのか木材なのかによってあとで残る。腐って地中に戻したほうがいいのか、強度を保つために10年20年持ったほうがいいのか。

(鉄道・運輸機構)

・当然自然に悪い影響が出るようなものはだめだと思っているのでこれからの課題。維持管理の面で、残しても自然として問題ないか着眼しながら具体的な提案をさせていただく。今日の意見を深度化して、分科会等で専門家を含めて皆様と引き続き相談したい。

【議事3】分科会の設置

○資料3に基づき説明(中池見ねっと)

○質疑応答まとめ

(会員)

・協議会規約の第12条、協議会は敦賀市中池見湿地保全活用計画の推進に際し、専門的な事項の協議、実施のために、分科会を設置することができる。2、分科会は、協議会から付託される専門的事項について協議し、協議結果等を協議会の会議に報告する。3、分科会には、分科会長を1名置く。分科会長は、協議会会員の中から、協議会会長が指名する。4、分科会の会員は、分科会長が指名する。ただし、会員から、分科会への参加意思が示された際には、これを妨げない。5、分科会長は、分科会を代表し、会務を総理する。6、分科会は、分科会長の招集により開催される。以上が規約の通りであり、今回提案の分科会の設置について賛同いただきたい。

(会員)

・今まで協議会は年2回ぐらいの開催で、詳細なことを議論する場がなかった。分科会は当初からあるべきだった。分科会はプロジェクト的に短期間ではなく、当面の課題として復元をどうするかという具体的な協議の場であるべき。どう維持し守っていくか、活用という意味でどう広げていくか、先の長いテーマを扱うと思う。施行スケジュールを考えれば、今年度内にと時間的には厳しいと思うので、月1回程度からスタートして先を見てやるべきことから取り組んでいく。関係者の多くの知見が寄せられるよう、専門家だけではなくいろんな思いを持った人が集まれるように期待している。

(会員)

・分科会のメンバーとして何人ぐらい想定しているか。

(中池見ねっと)

・この協議会の皆さんが前提として、フォローアップ委員会の動物植物の専門の方にお声かけしようと思っており約10名。そのほか、地元の専門家として、中池見のトンボを調べている方や、中池見をテーマに研究されていた方4、5名にお声かけするつもり。そのほか藤ヶ丘、深山寺、檜曲の実際地元で生活されている方。オンライン開催で想定していたが地元の方に参加いただく上では、公民館を会場にしてハイブリッドで開催ができないかと考えているところ。実際に会議に参加してもらう方は専門家としては10名から15名ぐらいで、市民の方には多く参加いただければと考えている。

(会長)

・この協議会のメンバー以外の方がむしろ多くなる可能性がある。協議会のメンバーでない方は分科会の中では、分科会のメンバーになるのか。それともそこに入った方は自動的にこの協議会のメンバーにもなるのか。分科会は、オブザーバーとしてそういった方々が参加するのか。その辺りどういう整理なのか。

(事務局)

・分科会長は、協議会の会員の中から指名されなければならないが、4項の中では、協議会の中から分科会員が選出されるということは書いてないので特段問題はないと理解している。ただ闇雲に多いと支障があり規模感は慎重に判断するべきかと。

(会長)

・複数回開催することに協力いただける方というのは恐らく必要。単発だったらオブザーバーとかゲストみたいな感じ。その辺り詰めていただくとありがたい。もう一つ、分科会での議論の結果、この協議会に報告するという規約になっている。実質的には分科会で決定する形になると思うが、この協議会としてそれでいいかどうか。協議会の皆さんのほうが責任を持って関わっている方だと思うので、分科会は専門的に協議をした結論は出すけれども、最終的な承認というか分からないが、それはこの協議会の本体で諮る必要があるとか、ここが意思決定機関なのかも分からないが、その辺りは、決めておかなければいけないかと思う。

(事務局)

・分科会の決めた話はおおむね皆さん同じような意見になるというか、反対なことを協議するわけではなく、最善の方法を取りまとめる場であるので、今後の保全に大きく影響を与えるものとは理解していない。ただ、分科会で決まった大事なことについては、メールなどで会員の方にはフィードバック、お知らせ、報告をするべきだと思う。会長等の協議の中で、大事な案件となれば協議会に諮るべきものだと思う。

(会長)

・決定したのもう変えられませんという状態にしないように、情報提供をしていただいて、もし様々な意見とか要望が出てきて、協議会を開く必要があると私と事務局で判断した場合には、この協議会を開いてしっかりと議論するということか。こちらでも一応意見を反映できる道はあるということになるがよろしいか。

(顧問)

・提案の分科会をつくるという流れは基本的には賛成。今までの議論は分科会と協議会とのリレーションシップだけを話し、協議どおり規約の中での議論だが、後谷の保全を考えたときに工事主体はあくまで機構さん。分科会が出来たとしてもイニシアチブは機構さんがとっているから、分科会は協議会に対して報告して、協議会はどこまで機構さんに意見を言えるかという、なかなか難しい。分科会が出来たところでヒントを与える程度のものでしかないから、分科会の立ち位置をはっきりと客観的に把握しておいたほうが良いと思う。

・学習田をどうするか維持管理をどうするかは、地域の方々が主体にやるべきで、意見を整理するのであればアドバイザー委員会のような形のほうが良いのではないかと。協議会と分科会を毎月やっていたら、我々専門家も含めて、遅かれ早かれフェーズアウトすると思う。尻すばみの会議になってしまう可能性は十分ある。より現実的に把握して、どのように意見を、どういう経緯をもって、どこに提供するのか、協議会なのか機構さんなのかははっきりしておかないと、非現実的ではないかと感じた。

(会長)

・分科会と協議会との関係を中心に議論してきたが、今提案があったのは機構さんと協議会それから分科会との関係。機構さんの方でも、煮詰まってない部分があると感じている。それをどう提案できる形にされるかは機構さんとしても必要な体制を整えていくかと思う。アドバイザーボードという意見は受け止めていただいて、必要性を判断されればやっていただくことになるだろうと感じている。分科会で自主的にイニシアチブをとって、決めていくことではないだろうし、機構さんもそのように認識しているのであれば提案いただける体制づくりは必要かと思うので、どちらか一つというよりも、うまくできるような体制というのは、我々は協議会の中に分科会を置くということ、機構さんは機構さんの方で、いろんなやり方があると思うので検討いただければ。

(鉄道・運輸機構)

・我々の設計計画について、意見等いただきながら適切に復元していく。どう協議会上げるかは協議会と分科会の関係なので、我々はどちらでもいいと思う。1番大切なのはどのような復元が適切かについて意見をいただく。その場が分科会なのかと考えていたので、そういった場があれば我々としては特にありがたい。

(中池見ねっと)

・具体的な誰と交渉して、どこに何を提案していくか詰めていない部分については申し訳なかった。工事を進めていくのは、鉄道・運輸機構さんで、工事の現場で出てきた議題について、この協議会で話し合おうと思うとこの開催頻度では難しいことがもともとの課題だったので、地域の方の参加をいただいて、よりよいものをつくっていくことも目標ではあるが、地域の方の意見も分科会で吸い上げて議題にしていくという考え方もある。基本的に分科会には、この協議会の皆さんに参加いただき地元の方から伺ったことも議題にしていき月1回程度話を進めていくと、分科会と協議会の間でやりとりをしていくことが少なくでき、分科会で決定したことは基本的に協議会メンバーの了承事項と進めていけたほうが円滑なのかと思う。

(会長)

・いろんな論点があって頻度に関しても、協議会では少ないが月1回は多いという意見もあったので、どこら辺が最適なのか。毎回皆さんに出ていただかないといけないのかも含めて、考えていただけるとありがたい。

(会員)

・協議会は年2回もしくは3回しかないし、分科会で月1回なり2か月に1回なり、進めることはいいが地元の方は8人か9人しかない。会長や顧問の先生方は遠くから来られて、毎月とか2か月に一度は難しいと思う。会員が分科会二つなら二つにして、どちらかに入って、一つは長期的なもの、一つは運営的なものという形で進めていくならいいが、提案された分科会だけなら、どなたが参加するかという問題。1人2人で分科会というわけにもいかないと思う。

(会長)

・分科会の会員に関しては、分科会長が指名するという事なので、強制的にお願いすることはないにしても、分科会の長になられる方が、ある程度音頭をとって人選いただいて、できる限り会員の方に協力をいただくということだと思し、規約の中では、申出いただいた方にもお願いすることは可能ですので、できるだけ協力いただくことになるかと思う。分科会も軌道に乗ってくれば複数やることも必要かと思う。逆に分科会を一つ作ってみて議題が多くて荷が多いということであれば、分割も検討していかなければいけないと思うので、これからの進捗を踏まえての対応になるのではないかなというふうを感じる。

・分科会の設立に関して承諾をいただきたいと思うが、分科会の設立について、異議なしという事でよろしいか。(拍手)

・分科会の会長の選任については協議会の会長が指名することになっているが、この人をお願いしたいは特にあるわけではないので、積極的にやっていただける方が望ましいと思う。中池見ねっとの藤野会員からやっていただけるという話があった。こちらに関しては皆さんいかがか。お願いしてよろしいか。（拍手）

・分科会の会員等については、依頼があると思うので積極的に協力お願いしたい。それ以外のメンバーにも推薦等があればよろしく願います。

（中池見ねっと）

・改めてまた名前についても検討していく必要があるかと思うが、後谷の湿地再生検討委員会、協議会の分科会ということで進めたいと思うので、今後とも協力いただければと思う。

【議事4】その他

○質疑応答まとめ

（顧問）

・年度が変わったので委員名簿を更新して、リストを資料として提供していただきたい。出席と欠席で出席の場合には、会場、対面出席とリモート参加の違いも含めて。リモートで出ている限り、どなたがどのような発言されているのか分からない。

（会員）

・新幹線も来たがどれぐらい県外の方を呼び込もうとか、市役所として具体的にお考えか。前の会長のとき、外来種の持込みを考えると、たくさん来過ぎては困ると意見が出た覚えがある。環境保全もやっていかないといけないが、敦賀市の大事な観光資源の一つとして、どれぐらいの人を呼び込んで、敦賀のにぎわいを活性化していくかを、ゴールが見えるような形でどう取り組んでいくのか。後谷の入り方とか見せ場とかも重要になってくると思うし、外来種を持ち込まないための工夫があると思う。できることはいっぱいあると思うので、市としてどれぐらいの人を呼び込もうという意味があるのかお聞かせ願えればと思う。

（事務局）

・中池見の活用計画で来館者数5万人と目標を設定している。新しい市長も議会の中で、中池見に人がぎゅうぎゅうになっているというよりは、自然をゆっくりのんびり見ていただけるようなイメージをしている。現在2万7000人なので、5万人の目標を考えると市役所で何か規制をかけるレベルではないので、もっとアピール、PRをしていきたいと考えている。

（会長）

・計画があるということはその計画期間があって、計画期間の最終年度にはこういう状態になっていると掲げられているはず。5万人というのが、大きな目標であればそのためにこういう計画を進めていくという話。入場者数や今年度の予定などお示しいただいたが、今計画がどういう状況にあるのかも、毎年とは言わないがフォローアップしていくと、どこが進んでどこが遅れているのかチェックしながら、目標達成に向けての取組を着実に進めていく必要があると思うので、今こういう段階という話をしていただけると、理解しやすいのではないかと。

(会員)

・ 県外の方、首都圏の方にも敦賀の中池見の自然を守っている姿勢を知っていただきたい。歩いて行ける素敵などころではあるが、新幹線を降り立って街歩きしてみよう、中池見山歩きもしてみようという方はそんなに多くない。目標として5万人と当初の数値があったが、当時はオーバーツーリズムなんて意識がなかった。今半分ぐらいは来ているが、倍増えることはとても有意義だと思うし、5万人はオーバーツーリズムで人が賑わい過ぎない数字だと思う。それ以上お越しいただいたら問題が出るとなれば考えないといけないが。

・ 保全の観点から外来種を持ち込まない対策も必要。学習的な要素も大事だと意識づけにも利くので、良い循環が起こればいい。体験型学習で子供たち自身に考えさせ、いろんなことを学び取ってもらう。敦賀は人道の港ムゼウムが代表されるが、人の優しさ、人道を目玉に子供たちを誘客して。自然を守るという観点から、中池見もそういう場にしたい。後谷は体験型もできるとても大事なところで、スタートをどうしていったらいいか協議する場。人が育てばみんな守っていける。今は行政主導でお世話になっているが、みんなが運営する中池見に近づくととても大事なスタートになる。組織的に言うと、企業、観光という協議会のメンバーもいない。そういう人にも入ってもらうような分科会で行きたい。駅から近いのでまち歩きで中池見を楽しんでいただく、そこから天筒山へ上がって歴史を感じて、金ヶ崎を回って町なかを戻っていただくルート。4kmぐらいの素敵なコースを知っていただくことで、中池見も大事だが敦賀市全体でも一つの大事なコンテンツとして、たくさんの人に歩いて楽しんでいただきたい。

(会員)

・ 中池見は観光資源としてはメジャーじゃない。次年度計画以外に長期計画が必要じゃないか。例えば5年計画で英語で発信する。昨年12月に友達のカナダ人を案内した。特に泥炭層が、世界的に地表から27メートルあって、5万年分の環境が見られ町なか近くに珍しい。彼はそういうのに興味があり三方の年縞博物館にびっくりしていた。中池見と年縞博物館をセットにして英語で発信すれば、普通の観光客が来なくても、マニアックな地層とか地質とかの自然に興味ある方もインターネットで知っている。3年5年かかっても英語で発信すれば、絶対敦賀に外国人のマニアックな人が来る。その人たちが国へ帰ってまた宣伝する。中池見を敦賀の観光資源としてメジャーに考えても何もできない。マニアックに考えるとロコミで広がり世界のマニアックな人が来る。ネイティブのアメリカンとかが敦賀に住んでいる。英語もしゃべれる日本語もしゃべれる人を集めて英語で書かしたらいい。ボランティアを活用してメジャーじゃないマニアックな方法で売り出す。

(会長)

・ 提案として今後検討いただければと思う。それでは本日議事はこれにて終了させていただく。活発な議論、意見いただき、また分科会についても引き続き協力の程お願いする。

(散会)